

令和6年度 調布市立若葉小学校 授業改善推進プラン

学校の教育目標	
かしこく（しっかり考え、進んで学ぶ子） やさしく（思いやりのある子） たくましく（明るくたくましい子）	
目指す学校像(ビジョン) 例)学校像, 教員像, 児童・生徒像	
笑顔あふれる「たい※」が泳ぐ学校 ※「～したい」「やってみよう」等といった前向きな思いやエネルギー 分かり合おうとする心と考える力を言葉と向き合いながら身に付ける子ども	
ビジョンの設定理由 (本校の現状と課題)	・明るく素直な児童が多い。しかし、自己肯定感が低く主体的な取り組みに課題が見受けられる児童も少なくない。・児童数の大幅な増加によるプレハブ校舎設置や校庭の狭小化等、活動に様々な制限が生じる施設環境下にある。・3年以上に及んだ新型コロナウイルスによる様々な変化の影響も一因と推測されるが、他者とのコミュニケーションや集団行動等に苦手さやストレスを感じる児童が増えている。

教科	目指す学校像(ビジョン)を基にした育成したい資質・能力	資質・能力を育成するための具体的取組
国語	<ul style="list-style-type: none"> ○自分が思ったことや考えたことを友達に伝えたり、書いて表現したりする力。 ○文章を正しく読んだり、正しく書いたりする力。 	<ul style="list-style-type: none"> ○友達の意見と比較したり、考えを広げたり、新たな疑問を生み出したりできるよう、日常的にペアやグループでの対話的な学習を取り入れる。その際ジャムボードやスプレッドシートなど ICT 機器や思考ツールを活用して交流活動の充実を図る。 ○読書活動を積極的に行わせ、語彙や優れた表現を獲得できるようにする。また、主語と述語に着目して読むこと、構成を考えながら書くこと、自分の思いや考えが聞き手に伝わるよう音読や朗読することを日常的に指導する。
社会	<ul style="list-style-type: none"> ○社会の事象を相互に関連付け、多面的・多角的に考える力。 ○主体的に学習の問題を解決したり学んだことを自分の生活に生かしたりする態度。 	<ul style="list-style-type: none"> ○課題を解決するために、映像教材や現物資料を用意して、社会的事象の特徴や傾向等を読み取る。また、思考ツールなどを活用しながら比較や分類をして、多面的・多角的に読み取らせる活動を取り入れていく。 ○単元のまとめでは、学んだことが身近な事象とどのように関わっているかを考えさせたり、自分の生活に生かせることや具体的な取り組みについて話し合わせたりする活動を取り入れる。
算数	<ul style="list-style-type: none"> ○数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える力。 ○数学的活動の楽しさや数学のよさに気付き粘り強く考えたり、学習を振り返ってよりよく問題解決しようとしたり、算数で学んだことを生活や学習に活用しようとしたりしていく力。 	<ul style="list-style-type: none"> ○図や絵・表や数直線を効果的に活用させ、問題解決学習型の学習を展開し、自分で考え表現し伝えて「知的に自立する」ことを目指す。 ○算数と日常の事象を結び付ける活動や具体物を使った操作的・作業的な活動、表や図、グラフなどからきまりを発見するなどの探究的な活動を、積極的に学習活動に取り入れる。
理科	<ul style="list-style-type: none"> ○自然の事物・現象に興味をもち、学び育ち合う態度。 ○調べたことや考えたことなどを記録していく力。 ○各学年の発達段階に応じた問題解決の能力。 	<ul style="list-style-type: none"> ○興味をもてるような事象を数多く紹介するとともに、グループや全体などで話し合う活動を数多く取り入れていく。自分の生活体験を想起させ、理科的事象と関連付けさせながら学習を進めていく。 ○図や文章などで、考えたことや話し合ったことを記録していく機会を多くする。 ○比べたり、関係を考えさせたり、条件を合わせたり、多面的に考えさせたりという方法を実態に合わせて教え、活用しながら問題解決に取り組みさせる。
生活	<ul style="list-style-type: none"> ○活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴やよさ、それらの関わり等に気付く力。 ○身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉え、自分自身や自分の生活について考え表現する力。 ○身近な人々、社会及び自然に自ら働きかけ、意欲や自信をもって学んだり、生活を豊かにしたりする態度。 	<ul style="list-style-type: none"> ○植物・野菜の栽培など、実体験の活動を日常的に取り入れる。また、一人一鉢活動を設定するなど気付きを得られる機会を設定する。 ○体験したり観察したりして気付いたことをカード等に表現して、友達同士で交流する活動を取り入れる。 ○地域の人材（ゲストティーチャー等）との交流を積極的に設定する。

<p>音楽</p>	<p>○音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わり、表現する力。 ○感じ取ったものを表現し伝え合う力。</p>	<p>○音や音楽を、そのかたちづくっている要素とその働きの視点で、視覚的にも捉えやすい授業の展開をする。 ○互いの演奏やその思い、意図を発表し合い、言葉にして伝え合う機会を多く設定する。</p>
<p>図画工作</p>	<p>○様々な表現の方法として技法を習得し、自信をもって制作に取り組む力。 ○進んで友達や作家の作品を鑑賞したりよさを発見し紹介したりする態度。 ○他者に様々な感じ方や考えがあることを知り、鑑賞や発想を広げる力。</p>	<p>○図工の基礎を学び習得することで、だれもが制作に自信をもって取り組めるようにする。 ○友達や画家の作品を見ることで全員が多角的なものの見方や表現があることや、それらがもつよさに気がつくようにする。 ○振り返りタイムや題名カードは課題ごとに書き方のポイントを確認し、自分の考えを言葉で表現できるようにする。</p>
<p>家庭</p>	<p>○日常生活の中から衣食住、消費や環境等の問題を見出し、進んで課題を解決する力。 ○基礎的・基本的な知識・技能を身に付け、家族の一員として生活をよりよくしようとする態度。</p>	<p>○食生活、衣生活では実践的な活動を行い、課題解決に向けて実践した過程や結果を振り返って考えたことを発表する活動を設定する。 ○家庭生活を構成している家族等の「人」や衣服、食物等の「もの」「時間」「金銭」などの要素に関心をもたせ、生涯にわたって家庭生活の基盤になることに気付かせ、自分たちができることについて考える活動を設定する。家庭と連携し、日常生活でも実践することで基礎的な知識や技能を定着させられるようにする。</p>
<p>体育</p>	<p>○運動の特性に応じた運動の行い方を知り、自己の課題を見付けるとともに、友達との学び合いを通して基本的な動きを身に付ける力。 ○日常的に運動する楽しさや喜びを感じたり、健康で安全な生活について理解したりし、自ら進んで行動する力。</p>	<p>○準備運動を統一し、どのクラスでも一定の運動量を確保しながらメインの運動に入っていけるようにする。また、領域別の慣れの運動も作成していく。 ○自己の課題に合わせて適切に選んで練習できるようにする。ICT機器を活用し、客観的に自身の動きを見ることで改善につなげていく。 ○体育授業を通して、様々な運動経験を積ませることで、児童の運動技能を向上させるとともに、運動への関心・意欲を高める。 ○第四中学校と連携をとり、四中校庭を活用し運動機会を増やしていく。 ○ゲストティーチャーを活用し、運動の特性を味わうことができる機会を多く設定する。</p>
<p>外国語</p>	<p>○「聞くこと」「読むこと」「話すこと（やりとり）」「話すこと（発表）」「書くこと」による実際のコミュニケーションにおいて、考えや気持ちを伝え合うことができる基礎的な力。 ○相手に配慮しながら、外国語を用いて主体的にコミュニケーションを図ろうとする態度。</p>	<p>○言語材料の十分な反復練習や音読活動、ワークシートを用いた基礎的な書き取り活動をバランスよく取り入れるとともに、それらを実践する言語活動を各単元の内容に応じて適切に設定する。 ○各単元の題材を身近なこととして捉えるための「導入活動」や「発問」を行い、主体的にペア・グループ活動、スピーチ活動に参加できるようにする。実際の言語活動では、「よりよく伝え合う工夫」を考え実践させることで、コミュニケーションをとることの楽しさや意義に気付かせる。</p>
<p>道徳科</p>	<p>○主体的に対話することを通し、自己のよりよい生き方についての考えを深める力</p>	<p>○ICT 端末を活用し、一人ひとりの児童の価値観や考えなどを共有する機会を作る。 ○児童の実態に合わせた指導方法を工夫する。（役割演技・動作化・表現活動等） ○児童が自らを振り返ることができるよう、個人で考える場や方法を工夫していく。</p>
<p>外国語活動</p>	<p>○「聞くこと」「話すこと（やりとり）」「話すこと（発表）」による実際のコミュニケーションにおいて、外国語を用いて自分の考えや気持ちを伝えられる力。 ○外国の言語やその背景にある文化に理解を深め、主体的に外国語を用いてコミュニケーションをとろうとする態度。</p>	<p>○自分の考えや気持ちを外国語を用いて構成できるように、各単元の題材と身近な生活とを結びつける「スモールトークを用いた導入活動」を取り入れる。「考えの構成→教師とのやりとり（集団）→児童同士のやり取り（ペア）→集団への発表」など、考えを構成し発信する言語活動を段階的に設定する。 ○ALT との交流活動や ICT 機器による音声や映像資料を効果的に活用し、日本語と外国語の音声の違いや、文化・習慣の違いに気付かせる。児童の興味関心を広げられる発問や言語活動、歌やアクティビティを多様に取り入れ、外国語をより身近に感じる環境づくりに取り組む。</p>